

理、工、薬、医にまたがる全国の大学教授ら19人を中心に、1999年に設立された『構造機能科学研究所』。「物質科学と生命科学の追究と融合による創造科学の推進と産業利用」を目指し、医薬・化粧品の研究開発に取り組んできた。設立5年目には製品も完成し、現在のコロナ禍でさらに注目が高まっている。本日は俳優の志垣太郎氏が訪問。鈴木社長にお話を伺った。



「健康と美容」の両面を実現する—— 生命医科学の研究から生まれたスキンケア製品

株式会社 構造機能科学研究所

京都府相楽郡精華町光台 1-7
けいはんなプラザ・ラボ棟 5F
URL : <http://www.kozoken.jp>

代表取締役

鈴木 正夫

TOP INTERVIEW

「まずは、鈴木社長の歩みから。雪深い新潟県妙高市の出身で、ずっと生命医科学を専門に基礎研究を行ってきました。まだアトピー性皮膚炎という名前もないころからアレルギーの研究に取り組んできて、35年前に皮膚からアレルギーが始まっていることを掴んだんです。衛生と免疫に長けた良いスキンケア製品があれば、アトピー性皮膚炎は防げるはずだと確信し、さらに研究を進めていきました。けれども世の中では、アトピーの原因は食べ物にあると考えられていましたね。」

「50年前、アトピーは千人に一人の病気でしたが、年々増える一方で、食べ物を制限しても大きな効果がないことも分かってきました。そうして長年携わってこられたことは、今こちらで活かされているのです。九州大学の教員をしていた時、国家戦略として大学発ベンチャー制度の発案があり、1999年に当社が設立されました。メンバーは理学、工学、薬学、医学などにまたがる全国の大学教授ら19人。いずれも生命と健康を分子・遺伝子・細胞などの観点から研究している研究者で、私が代表を務めることになりました。」

「では立ち上げから20年ほどになりますね。こちらではどのようなことを？事業の重点領域を化粧品と医薬などのスペシャリティケミカルズに置いて、研究開発と製造販売を手掛けてきました。様々な基礎研究を経て、アトピーなどお肌の弱い方にも使っていただけのスキンケア製品の開発に着目し、特に洗浄料の開発に力を尽くしてきました。」

「確かにそういう認識はありますね。創設から5年目でようやく製品が完成しました。従来の洗浄料は皮膚表面の油性物質を洗い流すことを目的としていたため、肌バリアとして重要な役割を果たしている天然の保湿クリーム「皮脂膜」まで失われていたんですね。そこからアレルギーが侵入してアレルギーが増加する一因になっていました。そこで、「皮脂膜」を活かす基礎化粧品として、肌の洗浄を行う「RIMソープ」と、クレンジングと保湿の効果があがる「RIMエモール」を開発しました。」

「研究の成果をかたちにし、これからは世の中に広げていく段階でしょうか。ええ。RIMスキンケア化粧品は、皮膚の清潔と免疫強化を目指して開発したので、コロナ対策の手洗いにもお使いいただけますね。京都府の新型コロナウイルス関連お役立ち商品に選ばれ、京都府相楽郡精華町のふるさと納税返礼品にも採用されました。各方面からもコロナ対策商品として注目されているので、今後はより多くの方に使っていただきたいですね。」

「実際に製品ができあがるまでにはどれぐらいかかったのでしょうか。そうですね。長年の努力がようやくこの楽な花開きで、これからの活躍が楽しみです。頑張ってください！」

「単に商品が売れば良いという感覚ではなく、『アレルギーに悩む人のお役に立ちたい』『心を届けたい』とおっしゃる鈴木社長。長年の努力がようやくこの楽な花開きで、これからの活躍が楽しみです。頑張ってください！」

Guest Comment

「単に商品が売れば良いという感覚ではなく、『アレルギーに悩む人のお役に立ちたい』『心を届けたい』とおっしゃる鈴木社長。長年の努力がようやくこの楽な花開きで、これからの活躍が楽しみです。頑張ってください！」

志垣 太郎
(俳優)

